

2 経管栄養関係の事例 ～胃ろうチューブ抜去～

発生時の状況と経過

現場実習(保護者付き添い)初日の11時30分頃発生。教諭が介助座位の後、ベッドへ移動しようと生徒を抱き上げ右方へ動かした際、破裂音があった。腹部を確認すると胃ろうチューブが抜去していた。すぐに施設の看護師が応急処置をし、保護者の自動車で病院へ向かった。

発生時の対応と処置

- ・施設を出発後、すぐに学校に報告した。
- ・病院で医師による処置をした。



考えられる原因や背景

- ・胃ろうチューブを身体に巻き込み、挟んだまま抱き上げて移動したことにより、抜去した可能性が高い。
- ・事故発生前に瘻孔から胃内容物の漏れが見られ、ガーゼの交換を行っており、虚脱しやすい状態だったことも考えられる。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・抱き上げる介助をする際には、おへその上部に胃ろうチューブをまとめるようにし、チューブが引っ張られる状態でないか確認を行う。
- ・胃ろうチューブの緩みがないか看護師と確認を行い、緩みがある場合には保護者に連絡をし、処置をお願いする。

ポイント！

- 体に装着されているチューブやカニューレなどは常に状態を確認しましょう。
- 胃ろうチューブは衣服に隠れているため見えないので特に注意しましょう。
- このような事例は多くの人で共有し、再発防止に努めましょう。